

令和5年度 第1回岡崎市自殺対策推進協議会

日 時	令和5年8月25日（金）午後1時30分から午後3時15分
場 所	岡崎歯科総合センター 2階会議室
出席者	伊藤義美、安西幸治、大野勝弘、青木裕明、岡田京子、竹中秀彦、三輪扶弥、佐藤雅史、梅本嘉一、山本京子、光部達也、林智栄、宮澤会美香、村井ちる子、坂東英子、近藤浩子（オブザーバー） 欠席：段野哲也、西川恵子、井村国稔、花井幸二、高橋洋三 傍聴者：なし
事務局	地域福祉課、ふくし相談課、障がい福祉課、長寿課、家庭児童課、岡崎市民病院地域医療連携室、中消防署本署、学校指導課、岡崎市障がい者基幹相談支援センター、福祉の村相談支援事業所、健康増進課 欠席：商工労政課

[次第]

1 挨拶

2 議題

- (1) 令和4年度自殺対策事業報告
- (2) 令和5年度自殺対策事業計画
- (3) 令和4年度「岡崎市メンタルヘルスに関する市民意識調査」結果報告
- (4) 「第2次のち支える岡崎市自殺対策計画」の策定について
- (5) その他（意見交換）

<開会>

1 挨拶

【保健部長】：(挨拶)

【事務局】：人事異動に伴う委員の交代があり、愛知県精神保健福祉センターの西川委員、愛知県こころの健康推進室の三輪委員、愛知産業大学の光部委員が新たに委嘱された。また、市民公募委員が昨年度途中で辞退されたため、新たに公募し宮澤委員、村井委員、坂東委員の3名が委嘱された。

本日の委員の出席状況は20名中15名が出席しているため、岡崎市自殺対策推進協議会要綱第4条第2項の規定により本協議会は成立。ここからの議事進行は岡田会長にお願いします。

【岡田会長】：(議事録署名者に伊藤委員と林委員を指名。出席者一同の拍手により承認)

2 議題

- (1) 令和4年度自殺対策事業報告（相談事業）

【事務局】：(資料に沿って説明。こころホットライン事業は福祉の村相談支援事業所より説明)

- (2) 令和5年度自殺対策事業計画

【事務局】：(資料に沿って説明)

【岡田会長】：事務局の説明について、御意見・御質問等はあるか。

（意見・質問なし）

ないようなので、そのまま質問します。

こころのホットライン事業はとても重要な業務で、相談を受ける相談員の負担が非常に大きい。相談員のケアについて、何か取り組んでいることはあるか。

【事務局】：相談員が辛い気持ちを抱えたまま家に帰らないようにするために、相談対応の確認をして振り返りを行っている。対応に不適切な点があれば指導もしているが、基本的には“本人が辛い気持ちを抱えて帰らない”ということを中心に心掛けている。

【岡田会長】：サポートする側（相談員）が疲弊してしまうと相談員の数も減ってしまうので、疲弊させずに新たに相談員となる方が増えるシステム、対策を考えていければいいと思う。

【大野委員】：電話相談の場合、相談内容の録音はしているのか。どうやって共有しているのか。

【事務局】：録音はしていない。相談員が作成した記録で共有している。

【大野委員】：例えば実際の相談内容と記録の内容が異なる可能性もあると思う。このような場合も想定して、録音することは検討しないのか。相手が話しにくくなってしまうということか。

【事務局】：「録音しているのか？」と確認される方もおり、安心して相談できるように録音していないことを伝えている。相談後は話してくれたことに対する感謝の気持ちも伝えている。

【岡田会長】：（他に意見や質問がないようなので）議題2についてはこの計画に沿って進めてください。続いて議題3、令和4年度「岡崎市メンタルヘルスに関する市民意識調査」結果報告について事務局よりお願いします。

(3) 令和4年度「岡崎市メンタルヘルスに関する市民意識調査」結果報告

【事務局】：(サーベイリサーチセンター名古屋事務所より説明)

【岡田会長】：事務局の説明について、御意見・御質問等はあるか。

【安西委員】：20歳未満の自殺に関する相談が増えているということだが、全国的な小中学生の自殺の増加と関連していると考えられる。若年層が不安を持っているという認識でよいか。また相談先の認知度が低い事が問題だと思うが、若年層には SNS を活用した啓発活動をした方が良いのではないか。

【事務局】：調査結果から、若年層で「いつも不安を感じている」の割合が、他の年代に比べて高い傾向にあるので、若年層が不安を持っている傾向があると感じている。

SNS の相談は昨年も御意見を頂いており、この後の議題(4)でも触れるが単市での事業実施は難しい。県や国で実施している SNS 相談を、分かりやすく情報発信できるように対策を考えていく。

【岡田会長】：事務局は今後の計画策定の検討材料としてください。

（他に意見や質問がないようなので）続いて議題4の「第2次いのち支える岡崎市自殺対策計画」の策定について、事務局より説明をお願いします。

(4) 「第2次いのち支える岡崎市自殺対策計画」の策定について

【事務局】：(資料に沿って説明。第4期愛知県自殺対策推進計画の概要は三輪委員より説明)

【岡田会長】：2次計画の基本的な方針は、資料にあるように現行計画を評価した上で、事業の継続や追加をするということによいか。

【事務局】：表現等は変えるかもしれないが、資料の内容がベースとなる。

【岡田会長】：その他に事務局の説明について、御意見・御質問等はあるか。

【大野委員】：若年層や女性への対策に重点を置くということだが、先日出席した児童虐待等 DV の県議会で聞いた内容と重なる部分があると感じた。岡崎市では若年層や女性、児童虐待等での相談対応は、支援する部署が異なるのか。

【事務局】：自殺対策は生活全般への支援であり、保健部だけで全て実施するのは難しいため、本日も多くの関係機関に御出席頂いている。子どもの支援は学校が主になるが、ケースによっては学校と連携を取りながら支援を行う。より深刻なケースでは一緒に支援を行う場合もある。それぞれで相談対応するという意味ではない。

【大野委員】：情報共有を行う検討部会のような場はあるか。

【事務局】：定期的開催している場はないが、自殺対策では若年層対策作業部会を実施している。今後は小中学生への対策を検討していくため、教育委員会にも出席頂き方針を考えていく予定。子育て世代では、家庭児童課と保健部の母子担当の係が定期的に会議を行い連携を図っている。メンタルの問題を抱えた相談もあるが、互いに連携して対応している。今後女性や子育て世代への自殺対策を強化するにあたり、どのように進めていくかは関係機関と相談していきたい。

【大野委員】：独居高齢者の見守りは地域包括になると思うが、高齢者でも同様の体制があるのか。

【ふくし相談課】：自殺者は若年層が増加していると事務局から話があったが、高齢者も増えている。地域包括支援センターは市内に 20 か所あり、福祉の専門職として保健師・社会福祉士・主任ケアマネの 3 職種を配置している。事務局からの説明資料に“孤独・孤立”というキーワードがあるが、国でも令和 4 年 12 月に「孤独・孤立対策の重点計画」が策定され、その中でも「声を上げやすい環境を作る」ということが明記されている。来所や電話による相談だけでなく、訪問等のアウトリーチによる相談も周知して、声を上げやすい環境を作っていきたい。

【事務局】：DV についても、家庭児童課の DV 相談を自殺対策の関連事業として実施している。自殺に関連する様々な困りごとに対して各部署で対応できるよう、庁内の職員向けのゲートキーパー研修も実施予定。今後も連携して進めていく。

【岡田会長】：その他に事務局の説明について、御意見・御質問等はあるか。

【安西委員】：前年度の実績評価で C が付いているのは、コロナ禍の影響でゲートキーパー研修等を実施できなかったということだが、社会的にはコロナは 5 類になった。今後ゲートキーパーに関連する事業は好転する兆しがあるのか。

【事務局】：実績評価は令和 1～4 年度で、2～4 年度がほぼコロナ禍で研修等を実施できていないため評価が低くなっているが、昨年末から今年度にかけては実施できている研修もある。今年度以降は実施予定である。

【安西委員】：自殺対策とは直接関係ないが、今週も多くのコロナ陽性患者が出た。世間的には 5 類になってコロナも風邪同様だと思っている方もいるが、感染者数は減っていない。コロナ自体は終息しておらず非常に増えているので、皆さんもご留意を。

【岡田会長】：今後はコロナとの共存を図りながらゲートキーパー研修も実施するということか。

【事務局】：参加者から Web の方が参加しやすいという意見があったため、ハイブリッド形式も含め検討していきたい。

【岡田会長】：その他に事務局の説明について、御意見・御質問等はあるか。

(他に意見や質問がないようなので)

先ほど高齢者への対策が話題にあがったが、孤立感に焦点を当てるのはとても大事なことだと思う。高齢者も若者の不登校などの自殺に至る前段階の問題に対しても、そこが一番肝になると思う。様々な視点から皆様が支援を行っていると思うが、学生の視点でみるとコロナ禍が約3年あり、リモート授業等、今まで考えた事もなかったようなことが始まった。特に大学生は、入学して学生生活が始まったら突然リモート授業ばかりという経験をした世代が、このあと卒業して新社会人になろうとしている。愛知産業大学の光部委員、現場で何か感じられることはあるか。

【光部委員】：今の学生は自分の好きなことにしか関心がなく、それ以外のことは見ない。様々な情報が入ってくる中で、自分が好きな情報しか見ないので、他のことを全然知らない。相談できる仕組みはあるが、使う人と関わる人との調和がうまく出来ていないことを、コロナを経てより感じている。学生は経験をしていないことはよく知らないため、こちらが想定していないことをする。仕組みがあっても、受け手側、指示する側の考えが違ってもあるため、より気をつける必要がある。お互いの顔が見える距離で相談しやすい体制を作ることも大切だと思う。

【岡田会長】：大学に限らずいろいろな組織の中で、発信した情報をどのように利用してもらうか考える必要がある。支援者側だけでなく、受け手側の職場や学校等がどのように情報を受け止め周知していくかも考えていく必要があると思う。

その他に事務局の説明について、御意見・御質問等はあるか。

【宮澤委員】：(意識調査結果から) 20代で「いつもストレスを感じている」方が29.8%に対して、「自殺対策について自分自身に関わると思うか」は20代では“そうは思わない”が45.8%。この差は、自殺したいと思った時に本人がどう発信していいのかわからないからではないかと感じた。また心の健康や病気の情報の入手先について“インターネット”の割合が37.8%だが、70代以上だと「SNS等を活用した情報発信」の割合が1.7%と、他の年齢層に比べかなり低く「相談したくても出来ない」が3.1%だった。SNSも大事だが、地道な活動も大事だと感じた。相談体制の充実・強化や専門医へ受診しやすい環境づくりにおいては、官民が連携し学校説明会のような場を設け、いざという時の相談先を見つけておくことがとても大事だと感じた。

女性対策にも力を入れていくということだが、子どもを喪失された母の話聞くピアカウンセリングをやっていくことも大切ではないかと感じた。

【事務局】：SNSだけでなく対象者別に効果的な対策を考えていく。元気な時に相談先を見つけておくことも必要なことだと思う。コロナ禍で近年実施できていないが、駅やイオン等で自殺防止キャンペーンとして相談先を周知するイベントを過去には行っていた。今年度は難しいが今後は実施予定。女性の支援も、健康増進課には病気のお子さんを支援する部署もあるので、一緒に考えていく。

【岡田会長】：(他に御意見・御質問がないようなので) 議題4については以上をもって承認としたいと思うがよいか。

(委員より異議なし)

本協議会の意見を参考にして、事務局で計画案の策定を進めてください。

では議題5のその他（意見交換）について、全体を通して意見等はあるか。

【青木副会長】：自殺対策について考えた時に、死にたい思いを表に出せる人とそうでない人がいると思う。薬局でも地域包括ケアという考えがあり、岡崎市では地域連携薬局制度に8軒登録されている。地域連携薬局の薬剤師は、そのような死にたい思いを抱えた患者と関わりを持っていくことが大切だと思う。保健所への提案だが、地域連携薬局に声を掛け、ゲートキーパーやメンタルヘルスに直接関わってもらえるよう依頼してもいいと思う。率先して地域に出るよう保健所からも推して頂きたい。

若い人たちは SNS 等のネットワークを活用する力はあると思うが、実際にはネットワークが発達していても、そのネットワークに乗ってこない人もいる。その中で自殺の要素を持っている人にどうやって発信をしていくかを、皆様でアイデアを出し合って考えていきたい。

【岡田会長】：直接的な支援と全体に対して考える対策の両面から、様々な案があると思うので貴重な意見だと思う。

その他、意見等はあるか。

【近藤オブザーバー】：今の子ども達は死にたい情報を全部 SNS で取ってくる。死ぬ方法がいっぱいあり過ぎて簡単になっている。もし SNS で手助け等ができるのであれば、大人が一生懸命汗をかいて子ども達の意見を聞きながら進められたら、一人は助かるのかなと思っている。

【村井委員】：市内でフリースクールをしているが、9月1日に小中学生の自死が多いので、8月17日から9月8日まで「学校ムリでもここあるよ」というキャンペーンを実施している。心の中を話せる場がたくさんできたらいいと思っている。

【岡田会長】：貴重な意見がたくさん出たので、事務局は参考にしてください。

【事務局】：（次回協議会の案内）第2回自殺対策推進協議会は令和6年1月26日（金）に予定。

【岡田会長】：すべての議題について、以上で終了とする。

【事務局】：（挨拶）

（終了）